

間違いだらけの海外子会社管理

～日系企業が陥りやすい 10 の過ち～

●プログラム●

【開催主旨】

海外子会社を舞台とした不正が後を絶ちません。ところが最近の新聞記事によれば、ある会社は不正発覚後の再発防止に向け、国内外の不正などを早期に発見する社長直属の監査組織の新設を検討するそうです。ここでちょっと考えてみてください。果たして不正の早期発見が可能な監査組織とは世の中に存在するのでしょうか？そもそも不正の早期発見は内部監査部門に課せられた責務なののでしょうか？ マネジメントの期待と内部監査の実際には、実は深いミゾがあるといわざるを得ません。このミゾを埋める作業をしないと、せっかく導入した諸制度も、導入した翌日から絵に描いた餅になるかもしれません。

本セミナーでは、講師が普段子会社管理に携わる企業のコンプライアンス部門、リスク管理部門、内部監査部門、法務部門や経理財務部門等の方々と接している中で感じる日系企業が陥りやすい 10 の過ちを取り上げ、過去の子会社不正の事例を徹底的に検証しながら、あるべき管理体制の方向性を探っていきます。

◆日時：2016年3月4日(金) 13:30～17:00

◆会場：東京・麹町 「企業研究会セミナールーム」

◆講師 霞 晴久氏 公認会計士、税理士、公認内部監査人、公認不正検査士

【略歴】

様々な産業分野の多国籍企業に対し、会計、監査及び国際税務の分野で 30 年以上の業務経験を有している。また、監査法人トーマツ（現、有限責任監査法人トーマツ）、新日本監査法人（現、新日本有限責任監査法人）及び優成監査法人において、フォレンジック・不正調査係争サポート部門の責任者として、財務不正等の問題を抱える日系企業への各種のサービスに従事してきた。

他方、海外生活は通算 14 年に及び、1988 年のデロイト トウシュ トーマツ・パリ事務所での日系企業部門の責任者を皮切りに、1998 年から 2004 年までは、デロイト トウシュ トーマツ・ブラッセル事務所での日系企業部門の責任者を歴任している。直近は、2015 年 3 月まで、日系企業によって買収されたベルギーに所在する臨床診断薬事業会社の CFO として、財務の視点から企業経営に直接従事した。

【主な著書】

「架空循環取引」（共著 2011 年清文社）

●参加要領●

一般社団法人 企業研究会 セミナー事務局宛 FAX 03-5215-0951

*当会ホームページ (https://www.bri.or.jp) からもお申し込みいただけます

●受講料● 1 名 (税込み、資料代含む)

正会員	32,400 円	本体価格 30,000 円
一般	35,640 円	本体価格 33,000 円

- 申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてに FAX いただくか、当会ホームページからお申し込みください。後日（開催日 1 週間～10 日前までに）受講票・請求書をお送り致します。
- 申込書を FAX にてご送信いただく際は、FAX 番号をお間違えないようご注意ください。
- 会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより【TOP】→【公開セミナー】→【よくあるご質問】をご参照下さい。
- 最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。

一般社団法人企業研究会

担当：村野 E-mail murano@bri.or.jp

〒102-0083

東京都千代田区麹町 5-7-2 麹町M-SQUARE 2F

TEL 03-5215-3550 FAX 03-5215-0951

151809-0203	※ 2016.3.4 間違いだらけの海外子会社管理		
会社名			
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			

*申込書にご記入頂きました個人情報、本研究会に関する確認・連絡及び弊会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

間違いだらけの海外子会社管理

～日系企業が陥りやすい10の過ち～

1. 海外子会社不正リスクは稼ぎ頭にあり？
2. 硬直的なストレッチ予算を強制していませんか？
3. 海外子会社トップの不正を意識していますか？
4. 海外子会社の贈収賄、対策ありますか？
5. 内部通報は無いのが良い？
6. 内部監査部門の整備は頭数？
7. 海外子会社不正は内部監査の責任？
8. 外部監査人に過剰に期待してませんか？
9. 海外 M&A, その DD 大丈夫？
10. J-SOX が入って何故不正が増える？